



東京都立大学大学院  
人間健康科学研究科  
人間健康科学専攻  
作業療法科学域

Tokyo Metropolitan  
University  
Department of  
Occupational Therapy  
Graduate School of  
Human Health Sciences  
2023



TOKYO  
METROPOLITAN  
UNIVERSITY

# 作業療法科学域

## ディプロマ・ポリシー

人間健康科学研究科では、大都市で生活する人々の「健康」に関連する研究を重点的に行っている。とくに、東京都立大学の使命である「活力ある長寿社会の実現」に貢献する研究は、本専攻の重要課題のひとつである。幅広い分野の理論や実践的知見を礎に確立された学問体系を基盤とし、それを深化させるとともに、学際的・融合的な研究体制のもと、大学院教育が行われている。健康に関わる様々な分野における「高度実践的専門家」ならびに「先端的研究者」の育成を目指している。

## アドミッション・ポリシー

### 【博士前期課程・全分野共通】

作業療法科学域では、人間を作業的存在と捉えることによって、科学的、社会的、国際的、文化・創造的視点から幅広く作業療法に関する知識の構築を図り、作業療法教育、一般臨床から地域・生活におけるヘルスプロモーションに貢献する実践家、教育・研究者を育成することを目指しています。そのため、作業療法に関連する幅広い教育力、マネジメント力、そして研究力を身につけることができる人、作業療法の創造的発展に貢献しながら、国際的にも活躍できる可能性を持ち、こうした努力を惜しみなく実行できる人を求めます。

### 【博士後期課程・全分野共通】

博士後期課程では、博士前期課程における作業療法に関する知識の構築に加え、さらなるその深化を図り、より自立した指導的な実践家、教育・研究者を育成することを目指しています。そのため、自らの専門分野で卓越した知を創出することにより、作業療法の創造的発展に貢献するとともに国際的にも活躍が期待できる人を求めます。

# 分野紹介

## 心身機能作業療法科学

本分野は、人間を構成する身体、精神・心理、発達の領域研究とそれぞれの学際性ならびに統合研究を行うことを目的とします。とくに人間心理と活動、生活、環境、文化の視点から新しい作業療法研究、教育、臨床を創造していく意欲と想像力に溢れた陣容で構成されています。質的研究、量的研究はもちろん、混合研究法の発展を踏まえながら根拠に基づく作業療法を確立し、より豊かで開かれた社会と人間真理の追求に貢献できる意欲をもつ「研究者の卵」を広く募集いたします。私たちと一緒に core of human being を探求しませんか。

## 作業行動科学

作業行動(Occupational Behavior)や作業科学(Occupational Science)は作業療法創始者たちの理念を現代化するために提唱されたものです。本分野ではこれらの理論の更なる展開のために、関連する哲学やシステムの発想、行動科学といった諸概念の応用を図ります。そして、作業が人々の健康と幸福にどのように影響するのか探っていきます。本分野では理論の様々な作業療法領域への応用やエビデンスの産出のみならず、作業を通して住民が健康になれるような地域づくりにも積極的に参画して、作業療法の可能性を広げていきたいと考えています。

## 作業生活環境科学

対象者が心から望む作業occupationを可能とするために、環境へのアプローチも欠かせません。本分野で学修していく環境には、福祉機器・用具や住宅改修などの物的環境、介護家族や専門職スタッフなどの人的環境、サービスや制度などの政策的環境、震災や気候変動などの自然環境、スティグマや社会規範などの文化的環境が含まれます。このような環境がいかにして人の作業参加を阻害・促進するのかを明らかにし、人の生活を豊かにする手だてを提案していくのが本分野のミッションです。

# カリキュラム・ポリシー

作業療法科学分野に関する高度の専門的知識及び能力を修得させるとともに、関連する分野の基礎的素養を涵（かん）養するよう編成されている。

博士前期課程では作業療法科学域の共通科目として「分野共通必修科目」が設置されているほか、各分野の専門科目である「分野必修科目」、更に専攻共通科目が設定されている。研究においては、指導教員および副指導教員による個別指導や分野（研究室）における議論などによって、自分の研究テーマの正しい科学的解明を目指すとともに、論文の書き方・発表・議論の仕方なども学ぶ。

博士後期課程では、各自の研究目的に合致した科目を選択し、博士前期課程における研究を継続し、研究論文としてまとめる。学術雑誌への掲載や、学会での報告などによって研究を深め、3年次1月に最終発表会を行う。博士論文は、外部の審査付き学術雑誌に投稿、掲載されることが条件となる。

## 人間健康科学研究科 作業療法科学域 博士前期課程

専門教育における学習成果と授業科目の対応表（カリキュラムツリー）



## 人間健康科学研究科 作業療法科学域 博士後期課程

専門教育における学習成果と授業科目の対応表（カリキュラムツリー）



# 教員紹介

教員名	職位	研究領域
伊藤 祐子	教授	発達領域の作業療法に関する研究、感覚統合理論と実践の効果、発達系における支援機器・おもちゃ・遊具、特別支援教育の作業療法に関する研究
小林 法一	教授	高齢者の地域作業療法に関する研究
塩路 理恵子	教授	臨床精神医学、不安障害および慢性抑うつ of 精神病理学・精神療法・森田療法
谷村 厚子	教授	精神科領域の作業療法に関する研究、地域精神保健サービスに関する研究、作業療法教育に関する研究
ボンジェ・ペイター	教授	作業科学、narrative-in-action(行為の中のナラティブ)や参加型研究法、多職種連携(IPW)と多職種連携の教育(IPE)
石橋 裕	准教授	健康増進事業における作業療法支援の効果研究、化粧を用いた作業療法プログラム(SSPC)の効果研究
井上 薫	准教授	作業療法教育および福祉用具・評価・トレーニング機器の開発・評価、医療・福祉ロボットの臨床応用
藺牟田 洋美	准教授	高齢者心理学・健康科学・介護予防:介護予防の視点からの閉じこもり高齢者への心理的支援法、中高齢期における健康行動と笑いの研究
金野 達也	准教授	作業科学、クライアント中心の作業療法介入の研究、IADLに関する研究
橋本 美芽	准教授	高齢者・障がい者の障害特性と住環境・福祉用具の適合に関する研究、認知症高齢者の住環境整備に関する研究
宮本 礼子	准教授	functional MRI を用いたヒトの意思決定に関する研究、fNIRSを用いた運動学習能力に関する研究、ペンタブレットを用いた人の書字動作研究
須山 夏加	特任 准教授	身体障害の作業療法、作業療法教育に関する国際比較研究、東南アジア地域における作業療法に関する研究、専門職連携・教育(IPW/IPE)に関する研究

# 学位論文

## 2022年度 修士論文

課題の視覚的フィードバックタイプによる左半側空間無視患者の「症状への気づき」の相違
重度認知症高齢者が表出する非言語的サインの特徴－絵カードを用いた作業療法場面の観察より－
訪問介護員による自立支援を基盤とした家事生活支援の取り組みと課題
精神科デイケア利用後に一般雇用での就労を継続している 当事者の経験の語り－ナチュラルサポートを得て就労継続に至るまでのプロセス－
回復期リハビリテーション病棟に入院した脳卒中患者が主観的回復感を感じるに至るプロセス～TEAによる分析～
幼児期前期の母子間の相互的なふれあい遊びがアタッチメントに及ぼす影響の探索的研究
回復期リハビリテーション病棟で作業中心の実践をする作業療法士の関係性構築の戦略～SCATを用いた質的研究～
精神科デイ・ケアにおける身体活動プログラムが身体・心理・生活満足度に与える効果
Usability of public play spaces for children with disabilities 障害児における公共の遊び場のユーザビリティ
INDONESIAN PEDIATRIC OCCUPATIONAL THERAPISTS' ACCEPTANCE ON SOCIAL ROBOT USE IN THERAPY: A MIXED-METHODS STUDY 小児領域の治療におけるソーシャルロボット使用に対するインドネシア作業療法士の受容: 混合研究

## 2022年度 博士論文

Subjective perceptions that affect the continued employment of persons with mental disabilities in Japan: A mixed-methods study 日本の精神障害者の就労継続に影響を与える主観的認識: 混合研究法
Self-management embedded in daily activities: A photoelicitation focus-group study among persons with spinal cord injury and their primary caregivers in Bangladesh 日常活動に組み込まれた自己管理。バングラデシュの脊髄損傷者とその主な介護者を対象とした写真撮影によるフォーカス・グループ・スタディ

# 作業療法科学域の国際交流

## 海外への留学・研修

### ● 英国オックスフォード・ブルックス大学 Oxford Brookes Universityへの短期研修

本学は、2012年に以降、教育・研究の国際交流を継続しています。夏季には大学院グローバルコア医療人材短期研修を実施し、毎年数名の院生が参加しています。この取組みは、本学の院生が英国の大学教員や院生と議論したり、作業療法の現場を見学したりすることにより、自身の研究を異文化の中で多面的に検討し、国際的視野に立った研究実践力を学ぶことを目標としたプログラムです。

### ● 海外留学

本学大学院（修士課程・博士課程）では東京都立大学の派遣留学生経済支援制度を利用し、2週間から6ヶ月以上の短・中・長期留学が可能です。なかでも、スウェーデンのカロリンスカ研究所とは国際交流、学生・教員交流を継続して行っており、院生がカロリンスカ研究所とかアムステルダム応用科学大学に留学し、教授陣のもとで研究活動を実施し、院生同士の議論、国際学会への発表などを通して、自身の研究テーマをより幅広い視点で探求し、グローバルな研究者としての歩みを進めました。上記の大学以外にも、指導教員のアレンジにより欧米やアジアなど海外の大学への派遣も可能です。

### ● ユーロマスター(European Master of Science in Occupational Therapy)の履修

ユーロマスターとは、アムステルダム応用科学大学に本部を置き、ヨーロッパの5つの大学により提供される作業療法の修士課程です。ユーロマスターでの科目履修は、修士課程の単位読み替えが可能です。

留学可能な大学 Amsterdam University of Applied Sciences (オランダ)

University of Brighton Eastbourne (イギリス)

Zurich University of Applied Sciences Winterthur (スイス)



## 留学生の受け入れ

### ● 東京グローバル・パートナー奨学金を活用した外国人留学生の受け入れ

2012年より博士および修士課程に、アジアからの留学生を受け入れています。

(2018年度から、毎年約2--3名が入学) <https://www.thrf.ic.tmu.ac.jp/tokyogp/>

### ● アジア高度先端医療者育成事業による外国人留学生の受け入れ

2017年度より生活支援機器や環境整備に関連する研究テーマで、アジアからの修士課程学生を受け入れています。将来、東京とアジアの架け橋となる作業療法人材育成に貢献します。

(＊毎年4名が在籍)

## 国際色豊かな授業

### ● 大学院科目「Advanced Occupational Therapy」

毎年、海外のさまざまな大学から講師を招聘し、インターナショナルな視点で作業療法を学ぶとても魅力的な機会を提供しています。

### ● TMU-OT Graduate School International (inter-laboratory) Seminar

留学生と後期課程院生のためのセミナーとして開催しています。英語でのプレゼンテーションやディスカッションを磨きたい前期課程の院生や教員も参加しています。



# 東京都立大学アクセスマップ

## 各キャンパスの位置と交通アクセス



### 荒川キャンパス

所在地  
〒116-8551 東京都荒川区東尾久7-2-10  
Tel 03-3819-1211 (代表)  
所属組織  
健康福祉学部、人間健康科学研究科

#### アクセス

日暮里・舎人ライナー「熊野前」駅下車徒歩3分  
都電荒川線「熊野前」駅下車徒歩3分  
田端駅から都営バス端44系統「北千住駅行」に乗車  
「都立大荒川キャンパス前」下車徒歩0分



### 南大沢キャンパス

所在地  
〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1  
Tel 042-677-1111 (代表)  
所属組織  
都市教養学部、都市環境学部、人文科学研究科、社会科学部、理工学研究科、都市環境科学研究科、人間健康科学研究科ヘルスプロモーションサイエンス学域

#### アクセス

京王線相模原線「南大沢」駅改札口から徒歩約5分  
※改札口を出て右手に緑に囲まれたキャンパスが見えます。

